



## サステナビリティで一步リードし、企業価値を高めていきます。

取締役上席執行役員  
情報戦略部・サステナビリティ推進部管掌  
経営企画部長

高久 祐一

### 中期経営計画「Compass Rose 2024」初年度の振り返り

本中期経営計画は「サステナビリティ経営の加速」を掲げてスタートしました。初年度となる2022年度は、持株会社へのグループサステナビリティ委員会およびサステナビリティ推進部の設置、役員報酬の業績連動賞与へのESG評価指標の組み入れによって体制を強化するとともに、サステナビリティ基本方針やサプライヤー行動規範・ガイドラインなどの方針類を整備しました。この間、具体的なアクションを起こし、施策を実行することを強く意識してきましたが、実際に成果が出始めていると感じています。外部環境の変化としては、持続可能な社会の実現に向けた動きが速まっており、投資家や顧客からの環境や人権に対する要請がますます高まっています。サステナビリティへの取り組みを経営課題の中心として捉え、予算などの必要な経営資源を積極的に配分していく必要があります。中長期的な観点で、事業活動を通じて社会課題を解決していくための道筋を描くことが重要だと、あらためて認識しているところです。

5つのグループ重要事項(マテリアリティ)については、それぞれに目標とKPIを定めて取り組みを進めています。グループサステナビリティ委員会で全体施策のモニタリングを行いつつ、各部門・各事業会社、各委員会の実行計画に具体策を落とし込んで進めています。グループ目標と各事業会社の目標を連動させ、各社の事業計画達成がニチレイグループの社会的価値

向上と経済的価値向上に直結しています。これらの目標設定は柔軟かつ機動的に見直しも行っています。例えば、ニチレイグループの未来への成長を考えるうえで重要なマテリアリティ「食と健康における新たな価値の創造」の定義とグループ目標を見直しました。目標の一つを「人々の“こころ”と“からだ”の健康や地球環境に対して付加価値を生み出す商品・サービスの売上高」とし、加工食品事業、水産・畜産事業、持株会社の新規事業の取り組みを合わせた目標に再設定しました。

役員・従業員へのサステナビリティ経営の浸透については、役員向け勉強会、全従業員向けのeラーニング、イントラネットでの情報配信に加え、2023年度、2024年度は全役職者を対象にしたSDGs教育プログラムを実施します。これまでのプログラムに対する社内からの反響は大変大きく、ニチレイグループにおけるサステナビリティに対する意識は非常に高まっていると感じています。

### 調達および環境における取り組みの進捗

素材の調達から生産・販売、流通加工・物流までサプライチェーン全体の機能を担うニチレイグループにとって「持続可能な食の調達と循環型社会の実現」と「気候変動への取り組み」は、経営の最重要課題となります。これらはグループサステナビリティ委員会に加え、取締役会や経営会議でも重要事項として適宜取り上げて審議・検討を進めています。

サプライヤー様と連携してサプライチェーン全体におけるサステナビリティの取り組みを推進することが大切であると考えており、当社のサプライヤー行動規範・ガイドラインの理解促進と価値観の共有を進めるためにESGアンケートを開始しました。また、当社事業における重要性などを基準に、サプライヤー様との人権デューデリジェンスの取り組みも開始しています。

食資源の持続可能性、環境、人権の面でリスクが指摘される水産物とパーム油については、2023年4月に「ニチレイグループ持続可能な水産物調達ガイドライン」と「ニチレイグループ持続可能なパーム油調達ガイドライン」を制定し、2030年のグループ目標・KPIに追加しました。今後は、生物多様性・TNFD(自然関連財務情報開示タスクフォース)、サーキュラーエコノミーについての取り組みが必要だと考えており、具体策の検討を進めています。

温室効果ガス排出量削減においては、再生可能エネルギーのポートフォリオの再検討を進めています。物流センター・食品工場の屋根への太陽光発電設備の導入、オフサイトPPAや環境証書の活用などを通じ、エネルギー効率化の施策とあわせてScope1、2の

2030年CO<sub>2</sub>排出量50%削減目標(国内、2015年度比)の確実な実現を目指します。また、ICP(社内炭素価格)の投資判断への反映や、2050年のカーボンニュートラル実現に向けたScope3数値の精緻化、削減に向けた具体的なアクションプランの検討を開始しました。脱フロン化では、物流センター、食品工場での自然冷媒への切り替えを着実に進めていきます。

### サステナビリティで一步リードする

企業に対する持続可能な社会の実現に向けた要請や期待は、今後さらに高まっていくと思いますが、こうした動きを追いかける、あるいは追いつくという姿勢ではなく、むしろ業界を一步リードするような存在となるよう、先行して対応していくことが大切であると考えています。このことが、新たな事業機会の獲得やニチレイグループのブランド価値向上につながっていきます。当社を取り巻く事業環境変化の潮流を契機とし、ニチレイグループらしい新たな価値創出による市場優位性を確保することで、持続的に企業価値を向上させ、サステナビリティ経営を実現していきます。

### 2022年度のグループサステナビリティ委員会の活動状況

開催実績	4回
主な議題	<ul style="list-style-type: none"> <li>再生可能エネルギーのポートフォリオ指針</li> <li>Scope3 CO<sub>2</sub>排出量の現状</li> <li>2022年度統合レポートでのマテリアリティ KPIおよびTCFDの開示内容</li> <li>人権課題について</li> <li>持続可能な調達の実現に向けたサプライチェーンマネジメント</li> <li>持続可能な水産物・パーム油の調達ガイドラインの新設について</li> <li>マテリアリティ「多様な人財の確保と育成」の取り組みおよび人的資本開示</li> <li>マテリアリティ KPIの進捗および2023年度目標</li> </ul>